

# 合同

No. 478

## 「土の器の中のワクワク」

日本キリスト合同教会教師

品川謙一



「ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために」コリントの信徒への手紙二 4章7節～12節。

Z世代という言葉をご存知でしょうか。Z世代は90年代後半～2010年代初頭生まれで、生まれたときからインターネットやデジタル機器に囲まれて育ったデジタルネイティブであり、現在13歳～27歳になっています。わが家の娘二人もその一員ですが、すでに世界人口の三分の一を占めており、2030年～2050年の中核となる世代です。ビジネスにおいても宣教においても、この世代の感性・価値観から学び、それらを活かしたサービスやミニストリーと一緒に作っていくことが、これからの世界の方向性を決めていくことになるでしょう。

コロナ禍中の2021年冬、二女が高校の同級生たちとコロナ対応プロジェクトを立ち上げました。彼らの第一の目的は、世界的パンデミックの中、無力感にさいなまれている同世代を「自分たちも何かできる」と励ますためでした。Z世代の彼らは、環境問題や社会問題への関心が強く、SNSで世界ともつながっているのですが、膨大な情報に押しつぶされて「自分には何もできない」と感じてしまうそうです。だからこそ、自分の近くのローカルなコミュニティで具体的なインパクトを実感できる小さなプロジェクトとして、コロナ禍で苦しんでいる駅前のレストランの支援を学校コミュニティに呼びかけ、ファンドレイズイベントやレストランからの出前ランチなどを企画・実行していました。

デジタルネイティブと言われますが、逆にZ世代はアナログなカセットテープやポラロイド写真が大好

きです。デジタルが当たり前で育った分、電源が切れても消えないモノ、手で触れて実感できるモノに魅力を感じるのです。このようなローカル、アナログな身体性への回帰はZ世代の感性的な特徴と言えるでしょう。

このようなZ世代の感性は、神がわたしたち人間を「土の器」として造られたことを思い起こさせます。宇宙を創造し、星々から微生物まで、壮大かつ繊細なクリエイターである神様は、その並外れて偉大な力を納める器として、きらびやかな宝石や頑丈な金属ではなく、はかなく崩れやすい土の器を選ばれました。わたしたち人間は、もっと強く、もっと欠けが無ければよかったのにと思いがちです。しかし欠けたりヒビが入ったりするからこそ、その欠けやヒビを通して真の希望の光である神のみ業が世界に現れるということなのです。ローカル、アナログに回帰するZ世代の感性は、このような土の器としての人間の身体性を取り戻す動きであり、AIやロボティクスの開発においても身体性の融合や不確実性の受容が重要なテーマとなっています。

Z世代と一緒に取り組むZ世代型ミニストリーの特徴は、①世界の未来や社会貢献につながるテーマ性がある、②アクションはローカルで具体的、小さく実行可能である、③同じ想いの仲間とつながることができる、④フラットで多様性を尊重した組織で進める、⑤クリエイティブで感性に響く（直感的な）表現がある、というようなものです。小さい頃からインターネットやSNSでネガティブなニュースを聞きながら育ったZ世代にとって、未来は基本的に暗いものです。ですから、そのミニストリーが自分たちの時間やエネルギーを使う価値があるかどうかの判断基準は、その活動に加わることによって未来を変えられる具体的なアクション、そして自分たちの感性に訴えるワクワク感があるかどうかです。

土の器だからこそ、わたしたちは不安になり、弱さを感じ、欠けがあることを悩みます。しかし、そこに神様の恵みが現れるチャンスがあります。みなさんは今、何にワクワクしていますか。まずわたしたち一人ひとりが自分のワクワクを手がかりに身の回りのZ世代と話してみてもはどうでしょうか。一緒にワクワクできること、そこから土の器の中の恵みを世界に現していきたいと思います。